

科目名	労働経済学	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Labor Economics	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	ふじもと つよし	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	藤 本 剛	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	労働市場、労働条件・労働環境、労使関係について基礎知識を学び、働くことへの理解を深めます。				
到達目標	社会における自らの役割を自覚する基礎となる知識や思考を身につけ、働くことに対する意識を充実したものとすることです。				
授業概要	3年後半になると就職活動が現実になってきます。この授業では「働く」ときに直面する様々な問題を社会政策の側面から取り上げ、制度や仕組み、現状と課題について共に考えていきます。近年、派遣やパート、契約雇用など、わが国の労働市場は流動性を増大させており、かつての年功序列・終身雇用が支配的だった安定した働き方は崩れ、フリーターやニートなどが一定の層となって堆積し続けている状況です。さまざまな労働をめぐる問題についてより踏み込んで分析し、確かな判断力と今後への指針を得るのがこの科目の目標です。				
授業計画					
第1回	資本主義の歴史的発展の中で表れてきた労働経済・労働事情分野の諸問題について概観し、そこで生じた政策課題について考えます。				
第2回	労働市場の動向をとらえる主な指標について、失業を中心に捉え、その意味について考えます。				
第3回	前回に続いて、UV曲線、フィリップス曲線、失業率、有効求人倍率などについて考えます。				
第4回	歴史的に不可避となった雇用政策について概観し、わが国の雇用制度、就業形態の特徴を明らかにします。				
第5回	多様化が進む就業形態を取り上げ、これに対する政策的対応を、国際比較を含めて考察します。				
第6回	賃金の代表的政策である最低賃金制度について取り上げ、わが国の現状について考察します。				
第7回	わが国の賃金制度について、その特徴を明らかにし、時代と共に生じる変化について考察します。				
第8回	成果主義の導入とその後の動向、賃金格差の状況などについて検討します。				
第9回	労働時間について、どのような制度・規制がなされているのか、その特徴を考えます。				
第10回	わが国の労働時間の変遷、実態と過労死問題を取り上げます。				
第11回	ワークライフバランス、労働時間の国際比較、過労死対策などについて検討します。				
第12回	労働組合とは何か。歴史的形成や諸類型について考察し、シヨップ制についても検討します。				
第13回	わが国の労働組合について、歴史的変遷と現在に至る経緯を検討します。				
第14回	労働組合の組織率や労働交渉について、わが国の状況を中心に検討します。				
第15回	政労使合意として国際的に取り上げられているワークシェアリングをオランダモデルで考察します。				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	新聞などに載る賃金や雇用、労働時間、労働組合などの記事に目を通し、記事で取り上げられている内容の理解に努めてください。授業の予習、復習も併せて1.5時間程度の学習を希望します。ネットを利用するのも一つの方法です。授業で取り上げたキーワードを確実に覚えるようにしてください。				
履修条件 受講のルール	特にありませんが、欠席した授業の内容は、ポータルサイトや受講した学生からの情報などでカバーするようにしてください。質問や意見などは出席カードに記入してください。				
テキスト	特に用いません。				
参考文献・資料	公務員Vテキスト『社会政策』第12版 TAC出版 『労働経済白書』各年版 厚生労働省				
成績評価の方法	試験（60％）、レポート・ビデオの感想・意見等（30％）、受講態度（10％） ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験				

	を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 木曜日の16時30分～17時30分
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び 実務を活かした 授業内容	
学生への メッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。関心を持って積極的に予習・復習や情報収集を行ってください。